

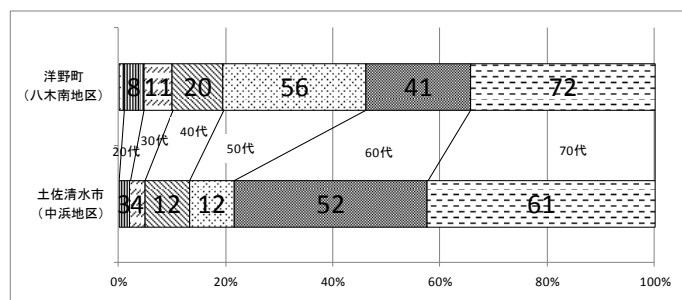


図 1. 質問「年代について教えてください」

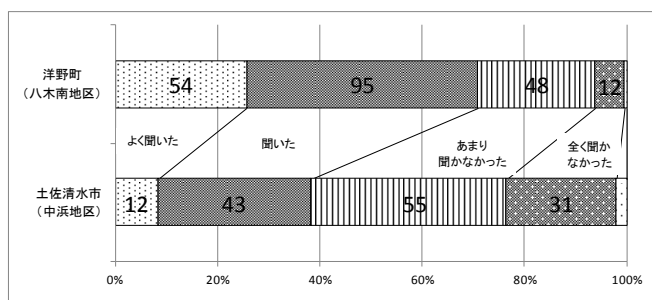


図 2. 質問「家族から津波や避難に関する伝承や話を聞いたことがありますか」

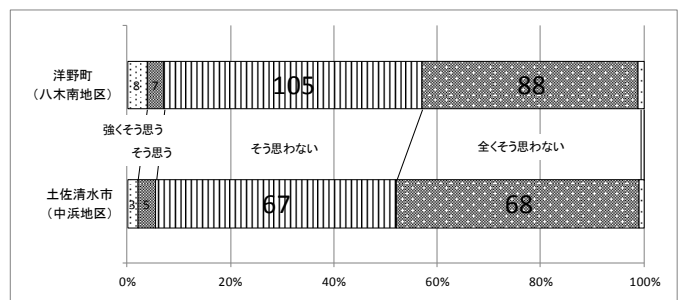


図 3. 質問「津波が来るのが見えてから避難を始めても大丈夫だと思いますか」

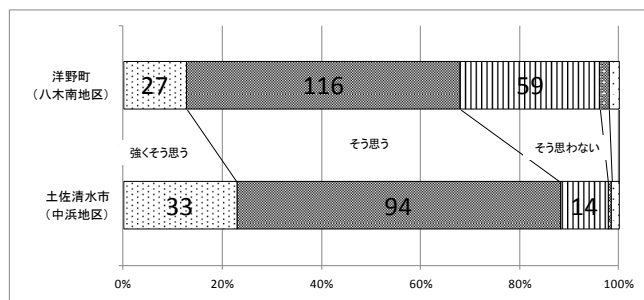


図 4. 質問「近い将来あなたの街の周辺において巨大な津波が発生すると思いますか」

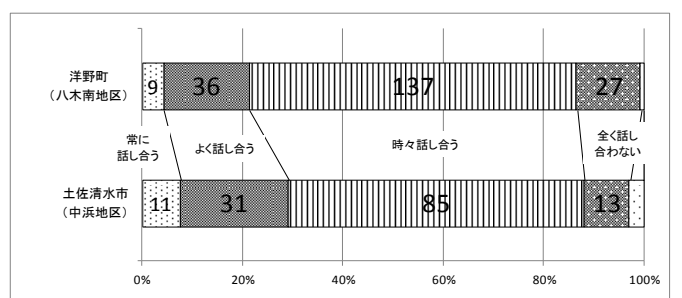


図 5. 質問「家族と津波や津波避難について話し合っていますか」

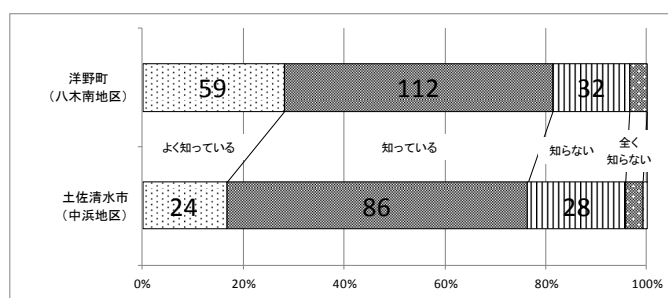


図 6. 質問「あなたの街でハザードマップを作成・公開していますが、このマップをご存知ですか」

次に、図 3 の通り避難に関する正確な知識を質問した。両地域で 92%以上が津波避難について正しい知識を得ていることがわかった。今後の津波発生の危機感に関する図 4 の質問については、東日本大震災を 4 年前に経験した八木南地区より、南海トラフ地震の発生の可能性について多く報道および情報を得ることができる中浜地区が 89.4%と高い割合を示した。家族との避難訓練の話し合いの状況について質問した図 5 については、八木南地区で 86.7%，中浜地区で 88.2%といずれも高い割合を示した。ハザードマップの認知度について質問した図 6 については、八木南地区で 81.4%，中浜地区で 76.9%という割合を示した。

6. 現状と課題

アンケート調査においては最後に自由回答欄を設けた。両地域において、高齢のために避難訓練に関心が持てない、参加が難しいなど、「高齢者の防災意識の向上」が共通課題として存在することがわかった。災害の記憶を風化させることなく、今後発生が危惧される大規模地震及び津波被害に備え、本点について早急に検討し課題解決に努めることが求められる。なお、本調査は「公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機構」の助成金により実施された。

参考文献

- ・「洋野町東日本大震災大津波の記録―海と高原の絆、未来へ確かな復興―」